

## 企業リスクインフォ <2013 年度第 3 号>

### スポーツイベント開催におけるリスクへの対応

#### はじめに

マラソン大会参加者の心停止、サッカー大会における選手への落雷事故など、スポーツイベントでは競技参加者が重大な状況に陥るケースが度々発生する。

イベントの主権者には参加者の安全に配慮する義務（安全配慮義務）が生じる。具体的にはイベントの遂行中に発生する可能性のある危険性を予測すること（予見義務）、予見できた危険によって生じる結果を回避すること（結果回避義務）が求められ、こうした義務を果たさないと法的責任を問われることになりかねない。このため主催者としては、会場施設、競技の特性などを勘案したうえで、イベント開催に伴うリスクを洗い出し、各々のリスクを低減するための適切な対策を講じておくことが必要となる。

2020年の東京五輪開催決定を受けて、国内でもスポーツイベントが盛んになることが想定される。本稿はスポーツイベントを中心に、事故のないよう、安全なイベントの開催、運営を行うためのポイントを解説する。

#### 1. スポーツイベント開催における留意点

スポーツイベントを開催するにあたって、まずは以下の4つに留意したい。

##### (1) 多くの関係団体による共同運営の場合、意思決定や責任分担が曖昧にならないようにする

イベントが開催される場合、多くの関係団体が集まって、企画、運営が共同で行われることが多い。単一の組織ではないため、組織力は弱く、意思決定や責任分担も曖昧になりやすい。事件、事故が発生した場合、その弱さが一気に露呈する。

この状況を補うためにもイベント運営マニュアルを整備しておきたい。意思決定者や責任分担をマニュアルで明確化することで、事件、事故が発生した場合に迅速な対応がとれるようになる。

##### (2) 事件、事故発生時のボランティアの対応力を強化する

大会の規模が大きくなるに従って多数の来場者への対応が必要になる。このため、多くのボランティアからの支援に頼らざるを得ない。ボランティアは現場責任者からの指示で動くため、自ら能動的に動くことはできない。従って、事件、事故が発生した場合、初動対応が遅れることが多い。ボランティアに対しては、少なくとも「競技参加者の異常を出来るだけ早く発見する」「救護所・AEDの位置を把握する」ことの周知徹底が必要となる。

##### (3) 会場内の安全管理を徹底する

競技参加者がケガをしないよう、会場内の競技用の施設・用具、会場内のセットの安全管理は極めて重要な要素である。

施設・用具やセット等はイベント開催中のみの一時的な設置が多い。従って、固定すべきところが固定されていない、強度が弱い、想定以上に負荷がかかっている、ネジが緩んでいるなど、安全管理上の不備が見られるケースが多い。安全管理チェックリストを作り、事前の確認を徹底する必要がある。

#### (4) 雑踏への対応力を強化する

規模が大きなイベントの場合、不特定多数の人が会場内に集まっている。このような状況のなか、ある事象をきっかけに一斉に同じ行動がとられた場合、群衆雪崩などが発生し、多くの被害者が生じることになる。一般的には5人/m<sup>2</sup>で人の流れが停止し、10人/m<sup>2</sup>で悲鳴と抵抗の声があり、15人/m<sup>2</sup>で圧死を招く。

来場者が集中しやすい場所、幅員が狭くなる場所（ボトルネックの部分）など、会場内の危険箇所を洗い出し、来場者を滞留させない、集中させない等の対応（警備）をとらなければならない。

また予め安全な避難経路や避難先を設定して関係者で共有しておくこと、事件、事故が発生した場合に来場者を落ち着かせるため、どこにいる人でも情報が届くようにスピーカーを設置すること、配置する警備員についても常に正確な情報が入るようにしておくことも必要である。

## 2. スポーツイベントで想定されるリスク事象

各種イベントの中でもスポーツイベントでは競技参加者のケガの発生率が比較的高く、またスポーツの種類によって発生しやすいケガの種類も異なる。主催者は、スポーツの種類や競技参加者の年齢、習熟度を見極めたうえで、参加制限など、ケガの発生防止に注力しなければならない。

イベントで想定されるリスクは以下のとおりである。顕在化した場合に「人的損害」「物的損害」「賠償責任」「事業中断」の何れに繋がるのかを考慮して、保険も含めて、個々のリスク事象への対応方法を検討する必要がある。

### (1) 自然災害

**【地震】**地震発生時、来場者がパニックに陥る可能性がある。安全な避難誘導（避難経路や避難先）、イベントの中止判断等を検討しておく必要がある。特に会場内の幅員が狭くなる場所（ボトルネックの部分）の把握に努めなければならない。

**【台風、大雨】**台風、大雨等に備え、イベントの中止、中断基準を設定しておく必要がある。

**【突風】**会場内のセットや看板、テント、机などが突風で飛ばないように、固定しておくことが求められる。業者に委託している場合には固定を徹底するよう要請を行うほか、主催者は実地確認することも忘れてはならない。過去、突風による看板や机の飛散でケガ人が発生した事例は多い。

**【落雷】**屋外でのイベントの場合、雷鳴が鳴ったら中止、雷鳴が止んでも20分は再開しないことを徹底する。過去には、サッカー大会において競技参加者への落雷事故があり、大会を中止しなかったことを理由に主催者に多額の損害賠償の支払いが命じられた事例もある。

## (2) 競技中の事故

【施設・用具に起因する事故】施設用具の安全管理、配置に留意する。破損や危険な突起物の有無、倒れる危険性のあるものの固定・緩み・腐食、水濡れの確認を行う必要がある。また配置については、活動人数の考慮、安全な動線の確保（施設、用具の安全な配置）、良好な競技環境の確保（照明、換気など）などへの配慮も大切となる。

【健康管理、身体能力に起因する事故】睡眠不足、不安定な心理状態、心疾患の有無など、競技参加者には健康管理に万全を期すことを周知する。また競技が安全に行われるよう、スキルに応じた競技への参加制限も考慮する必要がある。

【自然条件に起因する事故】熱中症への適切な措置、冬季活動時の十分な準備運動（筋肉、心肺に負担をかけない）など、自然条件面における競技参加者への配慮も必要となる。

## (3) 群衆災害

会場内の閉鎖空間や狭い通路、ボトルネックの部分で危険性が高い。ちょっとした、つまづき等で将棋倒しになる可能性もある。来場者の通行制限や導線の確保などを考慮しなければならない。

## (4) 盗難

スタッフや競技参加者の私物管理は自己管理が基本である。但し、クローク等を設置して私物を預かる場合には、主催者側でも善管注意義務に基づく管理責任が生じる場合がある。

## (5) 事件

無差別殺傷事件、爆発物、不審者対応については、シナリオを想定したうえで、避難経路や避難先を設定しておく必要がある。また爆発予告時の対処方法の検討もしておく必要がある。

## (6) その他

個人情報への漏えい、知的財産権の侵害（イメージソング、ポスターやパンフレット等の図柄等）、トイレ問題、迷子問題、救護施設運営の問題、遺失物の管理、クレーム対応、近隣問題（騒音、光害等）、会場周辺の交通渋滞、イベント終了後のスタッフの飲酒運転等などのリスクもある。各々、発生の可能性、対応方法を検討しておかなければならない。

## 3. スポーツイベントの運営に関わる留意点

円滑な大会運営を行うためのポイントを以下に示す。特にボランティアには周知徹底することが重要である。

### (1) 設営

テント、コート整備、のぼり・イス・机等、資料用意、資機材運搬、ユニフォーム用意などの業務がある。担当者は決められた役割をこなすこと、設備や什器、備品が強風で飛ばされないよう固定しておくことがポイントである。

## (2) 受付

入場券・IDの発行、入場、入場者カウント、ゼッケン配布などの業務がある。競技参加者が失格することのないよう、正確かつ漏れのないゼッケンの配布、IDの発行には留意したい。

## (3) 案内・接待

招待者の接待、障がい者への介助、外国人・乳幼児の対応、弁当の搬入・保管などの業務がある。専任の案内役を確認しておくこと、どこに案内すれば対処できるのかをスタッフには周知徹底しておきたい。

## (4) 会場の整備、誘導

来場者の案内や会場内の誘導、駐車・駐輪場の案内・整備、シャトルバスの案内等の業務がある。まずはスタッフに会場全体を把握させるとともに、競技の邪魔にならないように応援や撮影の人に注意すること、クレームには冷静に対応させることが大切となる。

## (5) 清掃

危険物等の分別、運搬などの業務がある。特にゴミ回収の際にケガをしないように注意したい。ゴミの中には危険物や針などが混入している恐れもある。スタッフには素手で作業させないことの徹底が必要である。

## (6) 競技運営

用具、得点管理、選手誘導、記録、違反チェック、給水などの競技の運営、飲料、軽食、景品管理・引渡しなどの休憩所の運営などの業務がある。スタッフには運営全体を把握させる（競技前、競技中の選手の誘導は間違えない）とともに、決められた役割をこなすこと（持ち場を離れない）、常に選手のケガに注意すること（体調の異変に注意する）を徹底しておきたい。

## (7) 救護

看護師の補助が主な業務となる。医師、看護師の指示に従い、勝手な行動をしてはならない。なお感染症への対策から、血液などには安易に触れないことも徹底しておきたい。

## 4. 事故発生時の対応

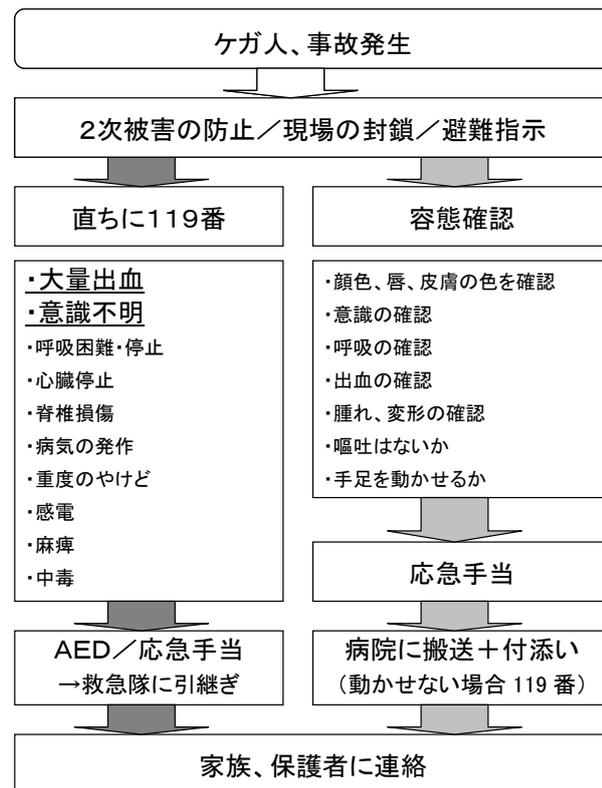
事故が発生した場合、最悪を想定したうえで、以下の行動をとる。

まずは二次被害の防止、現場の封鎖、避難指示である。施設・用具、会場内のセットが崩れる、または落下した場合に、付近に留まると二次被害が生じるためである。

次に大量出血や意識不明、呼吸困難・停止、心臓停止、脊椎損傷、病気の発作などの場合は迷わず119番をする。また救急隊に引き継ぐまで、AEDによる救護や応急手当を行なう。

覚えておきたい応急手当は、出血、心停止・呼吸停止、頭を強く打っている、大きな異物が刺さっている、熱中症の場合である。具体的には以下のとおりである。

- 【出血】傷口に清潔な布を当て、圧迫して止血するが、傷口や血液には極力、触らず、ゴム手袋、ビニール袋を活用する。
- 【心臓停止・呼吸停止】心肺蘇生・AEDが必要となる。
- 【頭を強く打っている】絶対に動かさない。
- 【大きな異物が刺さっている】大出血の可能性があるため異物は抜かない。
- 【熱中症】衣服を緩めて風通しのよいところに運ぶ。また氷などを首、わきの下、足のつけ根などにあて、冷やす。意識がある場合は、可能であれば、スポーツドリンクを飲ませる。



また発生時の記録を取ることも重要である。①発生場所、②発生原因、③ケガの状況（症状）、④対応状況（手当の内容）、⑤病院への搬送の有無、⑥家族・保護者への連絡、⑦対応者（氏名、連絡先）の項目が必要となる。

一方、主催者としては、①対策本部を設置する、②情報を収集する（情報源を確保する）、③現場や関係機関等、情報を必要なところに伝える、④被害拡大の防止策を講じる、⑤情報開示に努めるなどについて組織的に対応することが求められる。

以上

（文責：コンサルティング第一部 ERM グループ 主任研究員、マネジャー 本間 基照）

## 【スポーツイベント開催における主なチェックポイント】

①全体の体制	<input type="checkbox"/> スケジュールは無理なく組まれているか <input type="checkbox"/> 安全管理体制が整っているか、責任者が明確化がされているか <input type="checkbox"/> 警備計画は十分か <input type="checkbox"/> 避難経路、避難誘導先を検討しているか <input type="checkbox"/> 運営マニュアル、危機管理マニュアルは作成済みか <input type="checkbox"/> ヒヤリ・ハットの報告は行われているか <input type="checkbox"/> イベントの中止基準を定めているか <input type="checkbox"/> 保険手続きは十分か
②施設・用具、会場内のセットの安全管理	<input type="checkbox"/> 会場内の収容人数は十分か <input type="checkbox"/> 施設・用具、会場内のセットの安全管理を行っているか <input type="checkbox"/> 会場内一斉放送の設備があるか <input type="checkbox"/> トイレは必要数確保されているか <input type="checkbox"/> 迷子者の保護施設・体制はあるか <input type="checkbox"/> 遺失物、拾得物の管理施設・体制はあるか <input type="checkbox"/> 救護施設、スタッフは確保されているか <input type="checkbox"/> コインロッカーはあるか、内容物の定期的な確認は行う予定か <input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いは十分か <input type="checkbox"/> 近隣への対応（騒音、光害）は十分か
③スタッフ、競技参加者	<input type="checkbox"/> 必要な人員が配置されているか <input type="checkbox"/> スタッフのスキルは十分か <input type="checkbox"/> ボランティアスタッフのスキルは十分か <input type="checkbox"/> ボランティア等の管理者は設置されているか <input type="checkbox"/> スタッフ等の宿泊施設は確保されているか <input type="checkbox"/> 招待者と一般客との分離はできているか <input type="checkbox"/> 施設／私物管理／セキュリティ（入退室パス等）は十分か
④来場者	<input type="checkbox"/> 会場内の導線は確保されているか <input type="checkbox"/> 駐車場の確保、車の誘導體制はできているか <input type="checkbox"/> シャトルバスの運行、誘導體制は十分か <input type="checkbox"/> 危険物等の持込み制限への体制はできているか <input type="checkbox"/> チケット販売、受付、整理券配布時の秩序は保てるか <input type="checkbox"/> 会場内の案内体制はできているか <input type="checkbox"/> 国際大会の場合、多言語への対応はできているか <input type="checkbox"/> 高齢者、子供、障がい者の誘導體制は十分か <input type="checkbox"/> スリ、万引き等の防止策はなされているか <input type="checkbox"/> ケガへの対応体制は十分か

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメント専門のコンサルティング会社です。ERM のコンサルティングに関するお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問い合わせ先、または、お近くのあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

(株)インターリスク総研 コンサルティング第一部

TEL.03-5296-8914 <http://www.irric.co.jp/>

### ISO31000準拠！ ERM（全社リスク管理）コンサルティング

企業価値向上に資する全体最適の観点から、企業を取り巻く様々なリスクを全社的に管理するために、貴社の実状に即した効果的・効率的な体制づくりを支援します。既に体制構築されている場合の実効性を高めるための取組み推進や、各種個別課題解決のご支援も可能です。

ERMコンサルティングはISO31000に準拠したメニューを活用・応用して実施します。

不許複製／Copyright 株式会社インターリスク総研 2013